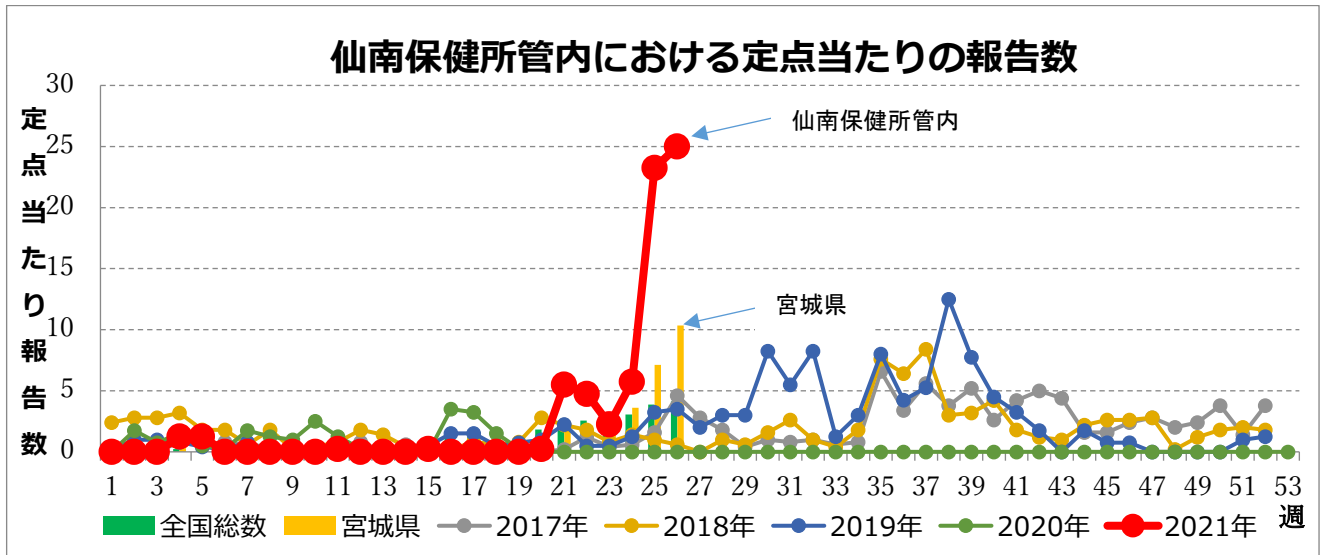


■ 過去5年間で、RSウイルス感染症の報告数が最大値となっています。



■ RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は、呼吸器系の感染症で、冬場の風邪のひとつであり、多くは軽症で済みますが、乳幼児では重症化することもあり、注意が必要です。

今後、更に増加する可能性がありますので、新型コロナウイルス感染症対策と同様に、咳エチケットや石けんによる手洗いなどの感染予防の徹底をお願いします。

- 症状: 潜伏期間は4～6日です。主な症状は発熱、鼻水、咳等で、通常は1週間くらいで治ります。どの年齢でも感染は起こりますが、0歳児・1歳児に多く、特に生後数週間から数か月で初めて感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
- 感染経路: 感染者の鼻汁・唾液中に含まれるウイルスが咳やくしゃみによって感染する飛沫感染や、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。また、乳幼児の場合、ウイルスが便の中に6～8週間以上排泄が続くことがあるため、オムツ交換後の手洗いをしっかり行う必要があります。
- 予防方法: 飛沫感染対策としてマスクを着用することが大切です。接触感染対策としては、「①子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒すること」、「②流水・せっけんによる手洗いまたはアルコール製剤による手指衛生の徹底」が有効です。



アルコールが有効です！



仙南保健所オリジナルキャラクター